

こらっせ便り



2018年9月27日

【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL : 045-353-9008

Eメール : info@korasse-kanagawa.org

「学生感想特集号」

放射能問題を考えつつ福島支援を続けます

「福島子ども・こらっせ神奈川」代表 山際 正道

2018年の「福島子ども・こらっせ神奈川」のリフレッシュプログラムは、8月6日～8日に山北・丹沢荘において実施し、台風にも暑さにも負けず、安全に楽しく当初の目的を達成できました。

今回の参加者は、小学生の低学年3名、高学年23名の計26名となりました。運営は学生・学生OB18名、大人ボランティア15名が協力して担い、山北・三保小学校11名の生徒さんとの交流もありました。台風が来るとの天気予報でしたので安全第一を心がけましたが、結果的には水遊び、ゲーム、花火、バーベキュー等も行い、帰りには横浜みなとみらい地区の散策もしました。別れ際に見せた子どもたちの顔を見ると、楽しい2泊3日を過ごしてくれたなと確信できました。

私たちは、2011年3月11日の大地震と津波による災害と原発事故による災害の中で、思い悩みながら福島居住を選択した小・中学生の支援を続けてきました。

国・福島県は、6年の経過の中で住民の帰還への動きを強めています。しかし帰還にかかる生活の保障、雇用の確保、生活環境の整備、人々の健康、中でも子どもたちの健康への心配はなくなりません。特に成長過程にある子どもたちにとって放射能の問題は、これからも長く健康に影響を与えるといわれています。これらの問題で思い悩む方も多いと聞きます。

私たちの活動が、それらの問題解決に少しでも役立てばと思っています。ともに活動してきた大学生・OBの若い力がより中心的な役割を担うことによって、長期を見据えた運動が可能と思っています。参加した子どもたちの嬉しそうな顔を思い出しつつ、支援活動を始めた時の原点を忘れず、今後の活動を進めていきたいと思っています。

このプログラム実施には、関係自治体、団体・市民の皆様のご支援ご協力頂きましたが、これからもご支援ご協力をお願いできればと思っています。よろしくお願いいたします。

「スーパーひたち」でいわきを出発、午後、山北町丹沢荘に到着、オリエンテーションの後、ゲーム、ウェルカムパーティ、花火大会（丹沢荘泊）

1日目(8月6日)

リーダーとして参加

今年は学生リーダーとして参加させていただきました。班を持っていないため、様々な班の子たちと交流することができました。2年前に参加した子どもたちが、成長した姿で笑顔を見せてくれた時は本当にうれしかったです。ある6年生は「こらっせが一番



楽しい」「来年もまた来たい」と言ってくれました。そしてお別れの日、ある5年生からお手紙をいただきました。そこには「1年間忘れないでね。」と記してありました。この子たち一人一人に何ができるかは分かりません。けれど、来年も必ず会って笑顔を届けたいと思いました。
(杉野 迅)

今年は班付きとしてではなく、全体を見るという形で参加させていただきました。そのため子供一人一人との深い関わりはなかなか築けなかったものの、子供たちみんなと関わることはすごく良かったと思いました。

3日間、子供たちのたくさん笑顔を見ることができ、色々なお話ができたのはとても楽しかったです。また、3年目の参加ということで、子供たちの成長をみることができたのも嬉しかったです。(高田 隼矢)

盛り上がったアイスブレイク

私は1日目に福島つ子が山北町に到着して最初に行うアイスブレイクを担当しました。翌日に思いっきり体を動かす予定もあったので、同じ部屋に泊まる子と仲良くなれるといいなと考え、自己紹介じゃんけんの後は各部屋対抗のゲームをふたつ行いました。事務局の皆さんにも参加していただき、みんなで楽しんでくれたと思います。また、私は去年と同じ子どもたちの班だったので、去年よりもお姉さんになった姿を見ることができたことも活動の魅力だと感じました。(坪井 香澄)

**三保小学校子どもたちと合流後、三保小学校体育館でお遊び。午後は川遊び後に丹沢湖ロッキに移動。バーベキュー、キャンプファイヤー。
(丹沢荘泊)**

2日目(8月7日)

生き生きと楽しそう

今回は最高学年として参加しました。グループを担当しながらプログラム運営に携わり、常にバタバタ動いていたため、迷惑をかけてしまうこともありましたが、これまでで一番楽しく、充実したと思いました。雨で中止と危惧されていた花火や川遊び、キャンプファイヤーを全て行うことができ、本当に嬉しかったです。企画した体育館レクでは、生き生きと楽しそうに参加している子どもたちの様子が見られ、やりがいを感じました。また、今回は特に活動の節々で子どもたちの一昨年・去年からの成長ぶりを感じ、とても感慨深くなりました。

(鈴木 香瑠)



「楽しみにしてた！」

リフレッシュプログラムを通して印象深かったことは、子どもたちが1年に1回の「こらっせ」の活動をすごく楽しみにしているということです。初日に子どもたちに「楽しみにしてた？」と聞くとみんな「楽しみにしてた」と元気に答えてくれ、嬉しくなったことを覚えています。その期待に応えたいという使命感が湧いてきて、3日間どうすることが子どもにとって楽しいのかを考えながら活動することができました。

教育学部にとって、子どもと3日間共に過ごすという貴重な体験は、教育に対する考えを深めることにつながり、とてもよい学びができました。「こらっせ」を運営、または支援してくださる大人の方々や、この活動に参加してくださる福島の方々、学生スタッフの方々に感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。来年も福島っ子に笑顔を届けられるように頑張ります。(柴田 一樹)

子供達が神奈川県に到着し、初めに行われたレクリエーションでは、班対抗のゲームを行いました。3日間一緒に活動する大学生も班に参加しました。ゲームを通して、子供達同士はもちろん、子供達と大学生もたくさんコミュニケーションをとることができたようで、お互いの緊張もほぐれたように感じました。このレクリエーションが終わっ

た後の部屋での自由時間には、ゲームが楽しかったという声を聞くことができたので、良かったです。(古屋 結麻)

心から楽しめた

初めてのリフレッシュプログラムでどんな子どもたちと出会えるのか、何日も前から楽しみにしていました。東京駅で会ったときは、「この人誰？」という表情をされたのを無視してグイグイ話しかけました。今まで子どもと深く関わる経験をしたことが無かったため、どのように接すればいいか不安なこともありました。自分なりに上手く関わる事ができたと思います。子どもたちと過ごした3日間は心から楽しむことができ、とても良い思い出になりました。(青木 愛美)

川遊びができてよかった！



僕が担当した川遊びやキャンプファイヤーは、直前まで天候の関係で出来るかわからない状況でしたが、子供達が楽しんで出来て良かった。ただもっと考えて、楽しませることが出来たと思うので進行面など改善して次に活かしたい。

横浜見学も制限がある中でしたが子供達が楽しんでいる姿が見られてよかった。ひとつの班に付く学生が多く別れて行動ができたので、子供達の要望に出来るだけ応えることができた。最後に子供達がまた

来年も来たいと言ってくれて嬉しかったです。(内海 克也)

今回、初めて「こらっせ」に参加させていただき、最初はどうしたらいいかわからず、レクもこれでいいのかと不安でした。でも、実際に子供たちと触れ合っ、一緒に遊んでいくと本当に楽しく、不安も忘れ、学生である自分も心から楽しんでいました。時間や安全など反省する点は多くあるとは思いましたが、この楽しさを忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。(太田 裕貴)

2日目は、前日からの不安定な天候でお昼の川遊びも夜のキャンプファイヤー、バーベキューも実施できるか否か子どもたちは午前中から気にしている様子でした。子どもたちの望みが届いたのか、大きく天候が崩れることもなくプログラムを行えました。三保小学校の児童と福島の子供たちは一緒にゲームに興じたり、食事の際にお皿に取り分けたりする姿がグループ内で見られとても友好的に関係づくりができていますと感じました。(熊谷 健太)

朝食後、丹沢荘を出発、バスで横浜みなとみらいへ移動。到着後、グループごとにみなとみらいを散策、終了後に「スーパーひたち」でいわきへ。台風の影響で2時間遅延、夜遅く到着。

3日目(8月8日)

「夏の一番の思い出」に感動

私は最終日のみで初めての参加でした。子供たちが様々なお店やモノに興味を抱き、はしゃぐ姿や美味しいと言って食べる姿を見て、たった1日でしたがとても楽しい時間になりました。台風の影響で行く場所が限定されてしまったことは残念でしたが、子供はやはり感受性が豊かだなと感じました。夏一番の思い出になったと言ってくれた子供もいてとても嬉しくて、私も来年はぜひ全日程参加したいと思いました。今回「こらっせ」の活動に参加できて良かったです。(岡 沙季南)

反省点もあり



初めての参加で至らない点も多くあり、子どもたちが楽しく過ごすためにもっと色々と気をつけるべきだったと反省しました。花火で飽きてしまった子のために室内で別の遊びを用意したり、川遊びで体が冷えてしまった子を先にお風呂に入れてあげたりと、柔軟な対応が必要だと思いました。全体的には、アイスブレイクで担当の班の子たちとすぐに仲

良くなれたことや、川遊びで他の班や三保小の子とも仲良くなれたこともあって、とても楽しい3日間でした。(吉本 海聖)

泣いてお別れ

昨年に引き続き、リフレッシュプログラムに参加させていただきました。2回目の参加ということもあり、自分の中で余裕を持って活動することが出来たと思います。昨年担当した子どもを今年も担当し、その成長を身近に感じることができて嬉しかったです。また、他の子どもたちも私を慕ってくれて、やりがいを強く感じました。最終日には、

手紙を書いてくれたり、泣きながら手を振ってくれたりして私も一緒に泣いてお別れをしました。忘れられない3日間になりました。(澤野 富貴)

私は、3日目の横浜散策だけの参加でした。久しぶりにみんなに会って、すごく成長していて私のことを覚えていてくれて嬉しかったです。今回は台風の影響でコスモワールドには行けなかったのですが、三菱みなとみらい技術館もお買い物もゆっくり巡って良かったです。お揃いのものを買いたいと子供達で相談して買い物している姿は可愛くて印象的でした。また来年もみんなに会えるのが楽しみです！(濱本 もも)



何度もハイタッチ

最終日の横浜散策のみ参加しました。あらかじめ子どもたちが行きたい所を決めてくれていたので、スムーズに行動することができ、本人たちも満足していました。私自身も、一緒にまわることで元気なパワーをたくさんもらうことができました。短い時間とはいえ、内容は濃いものでしたので、別れはやはり寂しかったです。子どもたちも何度もハイタッチしてくれて、来年また会おうと約束しました。一年後、彼女たちがどんな風に成長しているのか楽しみです！(伊藤 真亜沙)

こらっせユース OB ぎんが先生 登場！

「ぎんがが先生なんて変な感じ～」

私はこの春大学を卒業し、小学校教師になりました。大学1年生の時に初めて出会った当時小学2年生の子が、6年生になっていました。心も身体も立派に成長していく姿を、親戚のおじさんのように嬉しく感じます。これからもリフレッシュプログラムが、お互いの成長を感じられる暖かい場になればと思っています。いつもご支援くださる皆様に多大なる感謝を申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。(岩成 銀河)